

氏名	平 田 教 至
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3191号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Increased Expression of Selectins in Kidneys of Patients with Diabetic Nephropathy (糖尿病性腎症患者の腎臓におけるセレクチンの発現増加)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 原田 実根 教授 大森 弘之

学位論文内容の要旨

糖尿病性腎症においては糸球体及び間質への単球、マクロファージの浸潤が糸球体硬化に重要な役割を果たしている。炎症巣及び動脈硬化巣における白血球浸潤には血管内皮細胞に発現する細胞接着分子が関与している。P 及び E セレクチンは血管内皮細胞に発現し、細胞接着を司る分子である。われわれは、糖尿病性腎症における P、E セレクチンの発現を、他の糸球体腎炎(微小変化型ネフローゼ症候群、膜性腎症、IgA 腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、ループス腎炎)と比較検討した。糖尿病性腎症においては P、E セレクチンともに糸球体係蹄壁および間質の尿細管周囲毛細血管に発現しており、他の糸球体腎炎より有意にその発現が増加していた。糸球体内ではセレクチンの発現と浸潤白血球数との相関を認めなかったが、間質においては E セレクチンの発現と CD14 陽性細胞数との間に相関を認めた。これらの結果より、E セレクチンは糖尿病性腎症における間質へのマクロファージ浸潤に重要な役割を果たしている可能性が示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、糖尿病性腎症における糸球体及び間質への単球、マクロファージの浸潤が糸球体硬化におよぼす役割を明らかにすることを目的に、糖尿病性腎症における P、E セレクチンの発現を研究したもので、間質においては E セレクチンの発現と CD14 陽性細胞数との間に相関を認め、間質へのマクロファージ浸潤に重要な役割を果たしているとの興味ある成績を得ている。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。